



北山公園(右) (提供/東村山市役所)
 花しょうぶ 沿海州(上) (撮影/渡辺密雄)



東村山の里山「北山公園」

三宅 良太

北山公園は映画「となりのトトロ」の舞台とされる狭山丘陵、八国山緑地を背景にした自然公園で、新東京百選にも選ばれている。広さが2万9千㎡(約8千700坪)、その中に6千㎡余の菖蒲田があり、170種類、10万本の見事な花菖蒲が6月上、中旬から開花。公園内には市民と市が協働で作ってきた北川の自然護岸があり、豊かな水と緑に囲まれ、池やその周辺には多くの野鳥も集まる公園(野口町4・50)。花情報は4月にレンゲ、菜の花、7月に大賀ハス、9月に曼珠沙華、コスモスが咲き乱れる。

今年も第20回東村山菖蒲まつりが市商工会の主催で市も協力し、6月7日から22日に開催され、市内外から大勢の観光客が来園された。併せて「東村山市北西部地区『歴史とロマン』わくわくするまちづくり

市民の会」から有志二十数名(市民ボランティア)により周辺の千体地藏で有名な国宝「正福寺地藏堂」や徳蔵寺の重要文化財「元弘の板碑」の三ヶ所で観光ガイドも行われた。

この公園が作られた経緯は昭和47年当時、水田であった地区を翌48年に不動産業者によって宅地開発寸前までいったが、豊かな自然と田園風景を残したいという市民の要望で、49年に市が業者から買戻し、残りの土地も地主と協議、用地買収が進められ、51年に市の都市計画公園として決定され、造成が進められた。59年4月にオープン。因みに当市では48年6月に東村山市の緑の自然環境を保護、育成し、市民の健全な生活環境の確保、向上を図ることを目的として「東村山市緑の保護と育成に関する条例」も制定されている。

(S36商)

目次



花しょうぶ 猿蹄
 <撮影/増田敏喜>

東村山の里山「北山公園」	三宅良太	1
早稲田大学の優位性は50万校友の存在にあり		
.....総長 白井克彦		2
西北の風「虚脱からの復活」	佐藤清彦	2
会長挨拶	三宅良太	3
同好会訪問記 ウォーキングの会	高橋正夫	3
早稲田大学のお宝 国宝・重文	高鷲 近	4~5
おとなりさん 立川稲門会	鷲海量良	5
寄稿「故郷を離れて幾星霜」		
.....相馬信一・崎山裕子		6
私のヒマラヤ・アルプス紀行	高橋正夫	7
寄稿「結局は自分が嘘された(?) 沖縄家族旅行」		
.....小亀信雄		7
ポストマンくばる記 富士見町三・四丁目	田口政純	8
ショート・SHORT	小永井哲哉・横尾正宏・當摩彰子	8
事務局から	事務局	8
編集後記	岡田一郎	8

早稲田大学の優位性は50万校友の存在にあり

建学の原点に立ち、限らない改革推進を

早稲田大学 総長 白井 克彦

東村山稲門会の皆様方におかれましてはご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃から皆様方には三宅会長を中心として稲門会の発展にご尽力をいただき深く御礼申し上げます。

さて、お蔭様で早稲田大学は2007年に創立125周年を迎えました。昨年10月21日の創立記念日には国内外から多数の来賓、校友諸氏の出席を仰ぎ、盛大に記念式典を挙行することができました。早稲田大学は建学の第二世紀の幕開けにあたり、建学の原点に立ち戻り、これまでの様々な改革をよりいっそう推し進め、今後とも力強い歩みを続けてまいります。

教育面においては少人数ゼミ「テーママ



レッジ」や、少人数英会話プログラム「チュートリアル・イングリッシュ」、さらに、インターンシップ、国内外の大学との共同ゼミ・共同授業、各種の留学プログラムの充実など、学生の学習意欲を刺激する取り組みが実を結びつつあります。また今後、5年間で8千人の留学生を受け入れる計画をたてており、様々な文化や価値観が交錯する学内は、学生の活気で満ちあふれることでしょう。学生たちの自主的な活動も益々活発になっており、「早稲田祭2007」も大成功を収めています。

また、学部、大学院の再編も順調に進み、昨年、文学部・文化構想学部、および基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部が新たに開設し、今年は教職大学院も発足し、社会のニーズにきめ細かく対応する体制が整います。キャンパス整備においても、大隈記念タワーの完成に続いて昨秋には大隈講堂がリニューアルし、C棟も来春の竣工に向けて着々と建設が進んでいます。新世紀を迎えてキャンパスは装いも新たに皆様をお迎えすることとなります。さらには早稲田スポーツの盛り上がりも最高潮に達しております。野球部は

昨年の春季・秋季リーグ戦優勝に加えて大学日本選手権にも優勝し、ラグビー蹴球部は大学選手権において2年ぶり14度目の優勝、正月の箱根駅伝では競走部が見事往路優勝を果たし復活を遂げました。また11年ぶりに大学サッカー選手権を制したア式蹴球部等々、早稲田スポーツの活躍は華々しく、全国の早稲田ファンは幾度となく歓喜の渦に包まれました。さらには北京オリンピックにおいても、多くの学生・校友が日本代表として活躍しました。

西北の風

この春、家人が東大付属病院に入院したので、本郷に通うことになった。地下鉄を降りて竜岡門へ向かうと左手に本富士警察署がある。前を通りながら私ははるか昔を思い出した。大学三年の初夏だったから昭和二十九年だ。おろかな役人がいたもので、選挙での学生の票を制限しようと、「学生の選挙権は郷里にある」との通達を自治庁が出したのだ。つまり、議員選挙における学生の投票は郷里でなければならぬというのである。必然的に学生はこれに猛反対した。学生運動に批判的な学生も憤った。

わが新聞学科のクラスは決議して抗議行動に参加することになった。都内の大学生の大集会で、早稲田からは都電の車両を借り切つて本郷まで行き、集合場所の東大構内まで歩いた。そのとき本富士署の建物の窓という窓

る人気を博しております。

早稲田大学は今後、さらなる発展を遂げてまいります。そして、その支えとなっているのは、いうまでもなく校友の皆様の存在であります。歴史ある大学は卒業生と、学生、教職員が一体となって力を発揮しています。早稲田大学の優位性は世界の各地で活躍する50万近い校友の皆様がおられることであります。

改めて、東村山稲門会の皆様方の日頃の大学へのご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも早稲田大学に熱いまなざしといっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

から、警官が身を乗り出して威嚇していたのを憶えている。当然の結果として、その通達は撤回された。

私が早稲田を選んだ理由のひとつに、高校生のころ高田保の随筆集「ブラリひょうたん」に心酔したからだ。当時、彼は知識豊かな軽妙な文章で、あやしい政治家を批判したり、社会の過ちにメスを入れたり、不条理に異議を唱えていた。こういう人を生んだ大学に入りたい。

彼は不忍池を埋め立てて野球場にし、税収入を得る案にも大反対していた。もう少し生きていたら、自治庁通達には目を剥いたことだろう。

高層の病院の窓から、桜咲く不忍池や青い弁天堂の屋根を俯瞰しながら、先輩の高い志と物怖じせぬ気骨を思い、それを受け継ぐ後輩の育つことを強く願った。

(S31政経)

東村山稲門会役員 (2007年度)

会長	三宅 良太	(昭36 商)
副会長	風間 和夫	(昭30 法)
	當摩 彰子	(昭48教育)
	當間 昭治	(昭43 法)
幹事・		
事務局長	小亀 輝雄	(昭34 商)
幹事	赤荻 洋一	(昭40 商)
	芦田 均	(昭42教育)
	井原 徹	(昭30政経)
	小野 智	(昭30政経)
	河野 憲一	(平6 人科)
	高橋 文子	(昭55教育)
	高部 素行	(昭35理工)
	高鷲 近	(昭35 文)
	土橋 雄次	(昭35理工)
	内藤 槇	(昭28 商)
	長井 治	(昭29 法)
	中村 眞弓	(昭59 文)
	夏山 一彦	(昭48社学)
	南湖 修一	(昭48 商)
	額田伊久夫	(昭31理工)
	野田 数	(平9 教育)
会計	岡田 一郎	(昭40 商)
会計監事	崎山 裕子	(昭52教育)
	滝川 桜子	(昭40 文)
	戸田 志郎	(昭43 法)
相談役	山下 邦康	(昭36教育)
顧問	大西 幸夫	(昭30理工)
	久世 利夫	(昭22政経)

28名 (50音順)

★ 平成20年11月1日現在

極的に勧誘を進める予定です。どうか会員の皆様方にも是非よろしくご協力頂き、将来にわたり、益々発展・継続できますようお願い申し上げます。併せて会員、ご家族の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

(S36商)

稲門会活動のご協力御礼と 今後の展望



会長 三宅 良太

平成十八年十一月の設立十周年から早や二年が経過致しました。その間、各種の役割をお引き受け頂きました役員幹事の皆様のご協力と会員皆様のご支援に心から感謝御礼申し上げます。

現在、母校の校友会本部の傘下に国内地域稲門会が約400、その他職域、海外等併せると全部で一、二五〇余の稲門会が組織され、そして相互の交流が進められております。

私共の東村山稲門会でも、大学本部の商議員会、校友会本部の代議員会、東京三多摩支部の総会での交流や近隣稲門会の総会、懇親会への出席、また近年は新年会に立川、府中からも来賓が、春の花見会に国分寺稲門会から有志の方々の参加、麻雀同好会の相互交流、ゴルフ同好会では東久留米稲門会有志とそして本部主催の総長杯への参加、府中校友会の夏のビールパーティーへの参加、また園芸の会では同窓の三鷹の陶芸家・山野草の達人との交流や囲碁同好会では東久留米や関東近県の大会への参加、そして今年五月には当市と姉妹都市提携先の柏崎市の柏崎稲門会有志と旅行同好

会が旅先の寺泊温泉で交歓することができ、徐々に親睦の輪が深まりつつあり、誠にご同慶に存じます。

今後とも各同好会の世話人的の方々や関係者のご努力により、母校早稲田の同窓のよしみで更なる交流が進み、より意義深い校友会活動が展開できるのではと期待しております。

なお今夏より、新入会員増強会が作られ、高鷲委員長、芦田、土橋、石塚、高橋正夫氏の各委員が主になり、毎月発行のニュース配布にご尽力いただいております。またポストパースンの皆様のご協力をお願いし、積極

その他の同好会

■旅行同好会	年1回開催	●世話人 風間和夫 394-5279
■麻雀同好会	年4回開催	●世話人 松永常尚 332-5621
■カラオケ同好会	毎月1回開催	●世話人 芦田 均 393-7525
■音楽同好会	年5～6回開催	●世話人 高橋文子 393-2676
■テニス同好会	毎月1回開催	●世話人 當間昭治 391-6023
■囲碁同好会	年8回開催	●世話人 福田 晃 394-0593
■園芸の会	年5～6回開催	●世話人 當摩照夫・彰子 396-3033
■ゴルフ同好会	年4回+随時開催	●世話人 堀田秀夫 090-8339-7179
■俳句同好会	年6回開催	●世話人 井垣和太 04-2924-2934

同好会 訪問記

CLUB 8

復活した「ウォーキングの会」主宰者の高橋正夫さん(S35政経)を訪問しました。

「ウォーキングをみんなで楽しみませんか」

昨年三月からウォーキングの会を復活させました。奇数月の第四土曜日に行っています。これまでのところ、幸いにして毎回天気恵まれて、近郷の美しい自然を鑑賞しています。山登りではなく六十キロ位の平地ないし緩斜面歩きで、スローペースで会員同士の会話を楽しんでいます。史跡めぐりなどから歴史の新発見があったり、各分野の専門家の貴重な話を聞く機会もあります。いっそう参加者のご希望もお聞きし、さらに多様なコースを選定して、健康保持にも努めたいと考えております。秋・冬の多摩の自然も趣があり、植物鑑賞も楽しいものです。お気軽にご参加ください。

早稲田大学のお宝 国宝・重文

早稲田大学には、国宝二件、重要文化財七件、重要美術品八件を含む貴重な図書、美術品、書画、博物資料、映像資料、さらには大学の歴史に関わる種々の記録資料など約五百万点以上が、図書館、坪内博士記念演劇博物館、会津八一記念博物館、大学史資料センターなどに所蔵されています。

これらは、早稲田大学の創立以来、百二十五年に及ぶ教育・研究成果として「知」の蓄積であるとともに、早稲田文化の核をなす貴重な文化遺産です。そしてこれを、教職員、学生が協同して、広く市民や地域、社会に公開してきました。これらの貴重な文化遺産の一部をご紹介します。

■礼記子本疏義（国宝）

中国漢時代頃の儀礼書である。『礼記』の喪服小記第十五の疏義の唐時代頃の写本。本書は、皇侃（こうかん・六世紀頃の儒学者）の門人、鄭灼が皇侃の書に自説を増益したものと

のと考えられ、六朝時代の名儒の諸説がうかがわれる。巻末に光明皇后の印が押され、奈良時代には伝来していたと考えられる。

明治三十八年、早稲田大学図書館の初代館長・市島謙吉が、早稲田大学の近くに邸を構えていた宮内大臣・田中光顕（一八四三—一九三九）に本書の複製本の頒布を請うたところ、思いがけなくも原本の寄贈を受けたというものである。のち昭和六年（一九三一）、次に紹介する『玉篇』とともに国宝に指定された。

■玉篇（国宝）

『玉篇』は、梁武帝大同年間（五三五—五四五）、顧野王の撰であるが、梁代・唐代には改削が加えられ、宋代以降種々の刊行を見、宋刊本以外で原本の体裁のうかがわれるものは中国本土には伝わっていない。本書は、わが国に伝えられた貴重な古鈔本である。

■大宅賀是万呂奴婢見来帳（重要文化財）

本文書の内容は、大宅賀是万呂が舍人丸部臣広橋につけて貢進した奴婢を東大寺側が受けたことを示す請取状である。大宅賀是万呂が奴婢を貢進した内容の文書は、正倉院、東大寺図書館等のものを合わせて現在十通ほど知られているが、本文書もその一通である。

■相模国司牒（重要文化財）

相模国司から造東大寺司に宛てた文書である。天平二十年（七四八）、造東大寺司は相模国司に頼み、その調邸の一部の割譲を受け

たが、天平勝宝六年（七五四）にその土地を他の東大寺の地と交換するか金銭にて売却するかを交渉した。その結果、相模国司は土地を東大寺に売り、もっと便のよい場所を得る旨を通達したのが本文書の内容である。

■太政官牒（重要文化財）

北陸道観察使から東大寺三綱に宛て、御在所修理のための木工を北陸道（若狭・越前・越中・越後・能登・佐渡）の東大寺領から進上させるよう求めたもの。観察使とは、おもに税の収納、公務の励行などを任務とし、本文書発行の前年に設置された。

当時の北陸道は、比較的开发が遅れた地と見なされていたわけであるが、この文書により、北陸道の工人の技術がある程度は発達していたということがわかる。

■尾張国郡司百姓等解文（重要文化財）

永延二年（九八八）十一月に尾張国内の郡司・百姓等が、尾張守藤原元命の三か年にわたる苛政を三十一条あげて、朝廷に訴え出した上申文書である。当時、この種の愁訴・上訴は多かったが、その内容が具体的に豊富に知られるのは、この解文だけである。現存する尾張国解文のうち最も書写年代が古く、他の古写本に欠く解文提出の年記がわかる唯一の

ものである。

■仏師運慶自筆置文 (重要文化財)

現在の滋賀県の香之庄にあった荘園が、正治元年(一一九九)に運慶の養女である如意に伝領されたところから、その父である運慶がそれを保証するために裏書を加えたものである。内容は、娘の如意に不都合が生じた場合には、運慶の他の子に伝領させるという誓約書である。

仏師運慶は、鎌倉初期の彫刻家として著名な人物であるが、本文書によって伝記史料の少なかつた運慶の仏師以外の一面が明らかとなった。

■崇光上皇宸筆願文 (重要文化財)

この願文は、崇光上皇(一二三三-一二九八)が退位後、伊勢神宮に宛てて書いた祈願状である。

崇光上皇の宸翰は、現在三十五通知らわれているが、神宮に捧げられた願文で今日まで存在しているのは珍しい。

■大隈講堂 (重要文化財)

大隈講堂は、昨年(平成十九年)十二月、国の重要文化財に指定された。この建築物は、昭和二年、当時の総長、高田早苗によるゴシック様式と演劇のできる空間という二つの条件の下、建築家・佐藤功一の監修、建築学科

創立は昭和四十九年十二月、在住校友数ざっと千名、会員一六〇名。いずこも同じ悩み、なかなか会員が増えません。

年間行事としてまず一月に賀詞交歓会で会場は立川グランドホテル。丸本和代幹事(花柳小菊師匠)の「花柳小春 初春を舞う」が定番、四五十名が参加します。四月は昭和記念公園でバーベキューと酒と桜と会話を楽しみ、参加者はやはり四十名程度。八月は納涼パーティ。会員からなるウクレレだけのハワイアンバンド、女性役員三人のトモ

ン・ウィヒネと外部から招くイムアフラスタジオのフラダンスが会場を一気に盛り立て、実にカラフルなパーティを作り上げます。

今年は近隣を含め過去最高の六十五名が参加いたしました。最後に秋の定時総会。参加者は来賓などを含めて約百名です。なお、立川稲門会で特徴的なのは女性尊重と現役学生を積極的に招待していることでしょうか。東村山稲門会さんには学ぶことが沢山あります。今後ともよろしくご指導下さるようお願いいたします。

初代主任教授・佐藤武夫の実質設計で建てられたものである。

そして昨年、「創立一二五周年記念事業」の一環として全面的な改修が実施されたのはご承知のとおりである。生まれ変わった大隈講堂は歴史・内容ともに卓越し、国の重要な文化財として指定されたのは喜ばしい限りである。

早稲田が次の世紀に向けて第一步を記す記念すべき年に生まれ変わった大隈講堂。「新世紀早稲田」の象徴として、一層の輝きを放つことだろう。

■その他のお宝

以上のほかにも、数多くの貴重な資料・文献がある。例えば、『御鳥羽天皇宣旨』、『後醍醐天皇綸旨』、『武田信玄判物』(武田信玄が重臣の三枝勘解由左衛門尉守友に与えた代官の任命状)、『豊臣秀吉刀狩令』、『徳川家康書状』(家康が田中兵部大夫に発した直書)、『枕草子』写本、『源氏物語』写本(伝三条西実枝筆)、『松尾芭蕉「やとりせむ」懐紙』(芭蕉の真跡)、『南総里見八犬伝稿本』(曲亭馬琴が執筆にかける執念、気魄を筆跡から辿ることのできる資料)、『好色一代男』(井原西鶴の初版本などなど、歴史的に価値の高いものが多数所有されている。また、洋書の貴重品も多く、

例えばカントの代表的著書『純粋理性批判』、『実践理性批判』の初版本など、珍重なものも多い。

さらに、特殊コレクションとして、『杉田玄白肖像』(石川大浪画・杉田玄白自賛)、『前野良沢肖像』(前野良沢自画並びに賛)、『司馬江漢山水図』(司馬江漢画)、『シーボルトから贈られた「顕微鏡」など枚挙にいとまがない。まさに早稲田大学は、貴重な文化遺産の宝庫なのである。

(資料提供:早稲田大学図書館。詳しくは、大学図書館のホームページ「古典籍総合データベース」を参照。) (まとめ/高鷺近 S.35文)



重文・大隈講堂

故郷を離れて幾星霜……

今や故郷を「遠きにありて思うもの」の感慨を、福岡県の生まれの
崎山裕子さんと北海道出身の相馬信一さんに伺いました。

小6から住んだ福岡市が「心の故郷」

崎山 裕子 福岡県福岡市で七年生活

出身は？ 故郷は？ と聞かれると一瞬返答に困ってしまう。会社員だった父は転勤族で、私は小学校を4回転校した。父の辞令が出ると、母は手慣れたもので、私や弟妹に茶碗等を新聞紙で包む手伝いをさせながら、さつさと引越し準備をした。「単身赴任」という言葉もない時代で、いつも家族5人でカルガモのように父について行った。

そんな中、小6で転校した福岡市では中学・高校と転校せずに7年間を過ごし、現在も続く生涯の親友を得て、楽しく生意気盛りの時代を送った。それで、故郷は？と聞かれると、福岡と答える。

福岡の家は海のそばにあり、引き潮になると近所中でバケツを持ってあさり



博多中洲の賑わい 屋台街

を取りに行った。どの家もバケツ山盛りのあさりや夕餉にした。友達の家が海水浴場で海の家を開いていたので、夏は皆で泊まってお化け屋敷ごっこをした。中学校は校庭が砂浜に続いていて、よく友達と松林で歌を歌った。「表か裏かわからない」とからかわれたくらい真っ黒に日焼けして走り回った砂浜も、今は埋め立てられて福岡ドームや億ションの建つ高級住宅地になっている。

高校は家から徒歩5分の県立修猷館高校で、質実剛健？に育った。面白い学校で、数学の先生が生き方について熱弁をふるい、国語の先生はよく授業を休んだが生徒の気持ちにはわかる詩人だった。「失恋して悩んどいたら、先生がビールば飲ませてくれてなぐさめてくれたもんね」と男の同級生。その先生は彼を家まで送り、父親は先生にお礼を言ったとのこと。こんな秘話が続々出る東京での高校クラス会も増え、博多弁で気の置けない話をする時、やっぱり「福岡はよかたい」と思う。(S52教育)

失われ行くふるさと

相馬 信一

北海道札幌出身

今年の初秋に長兄の七回忌で、二年振りにふるさと札幌を単身で訪ねた。残暑の東京をのがれたはずが、札幌も例年になく暑い日が続いた。

法要は十五人ばかりの親戚一同が集まって、本家で行列、八十五歳になる長兄夫人が施主を務めた。一通りのことが済んでからは故人を偲ぶ回顧談に一類り華が咲いて散会した。法事で兄弟姉妹や身近な親類に会うのは、やはり嬉しいことに変わりはないが、今回は何かもの足りなく、さびしい感慨にとらわれた。原因はやはり本家の引越しにありそう。最近、事情があつて、本家もと在ったところからごく近くの新しいマンションの十一階に越したのである。旧本家は親兄弟

これはごく身近なケースに過ぎないが、ふるさと喪失の象徴的な一現象ではないだろうか。ふるさとへの思いは、そこで生まれ育った家が残っていて、親兄弟の誰かが住んで居れば十分満足させられる筈だ。そこを原点として昔通った道や家並み、よく遊んだ原っぱや川、遠くに見える山々など、目につくすべてのものと級友たちが懐旧の情にうつつたえてくる。それがふるさと札幌となり、ふるさと北海道へと広がっていくものではないだろうか。

故郷を離れて五十五年、今や「ふるさと」は遠きにありて……の心境にある。年老いた所為かも知れない。(S36文)

すでに早稲田を卒業して十六年経ちます。学生時代は、グリークラブ（男声合唱）とバイトの塾講師にあけくれた四年間でした。今でもその忙しさは変わっておらず、仕事に没頭してきた感があります（JTB勤務）。そんな中で、次男もやっと4歳になり手がかからなくなったこともあり、八月二十四日（日）から5日間、沖縄へ初の長期家族旅行へ行ってきました。息子たちにとって初めての飛行機、青い海、魚たち……など喜んでもらうために日ごろ

小亀 信雄

結局は自分が癒された(?) 沖縄家族旅行

のJTBでのコネや情報を駆使して計画しましたが、そんな中で「透明度」の高い海を求め、通常のリゾートホテルではない人里離れた「伊計島」のコテージに二泊しました。本格的にシュノーケリングしなくとも普通に泳いでいるだけで可愛い熱帯魚がすぐ近くに見えて、息子達も感激していました。結局一番喜んでいたのは当の自分だったよう（家内談）、久々に圧倒的な自然に癒されたひとときでした。(H4人科)

インタビュー

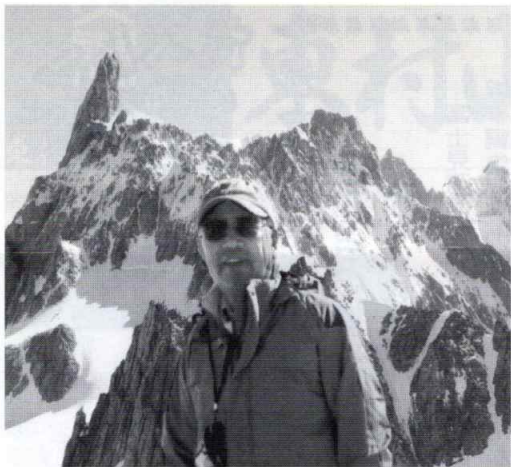
(高橋正夫さん・S35政経)

私のヒマラヤ・アルプス紀行

70歳を過ぎても、なお山への飽くなき挑戦を続ける鉄人——それが高橋正夫さんです。高橋さんに、山への想い、健康の秘訣などを語っていただきました。

●山との出会いはいつごろからですか

高等学院に山の好きな友達がいって、誘われて始めて登ったのが、丹沢の塔ヶ岳でした。また伯父が山岳映画家で、映写会の手伝いさせられたりしているうちに山の魅力に取り付かれました。しかし学部に入ってから結核になり、それも1年後に再発してしまって手術して、寝たきりの散々な学生生活でしたので、いったん山はあきらめていました。それでも山へのあこがれは、学院でフランス語を近藤等先生に習ったので、先生の翻訳された著名なアルピニストの登攀物語や、ロッシの「ザイルのトップ」などの小説の影響が大きいです。まさに英雄伝説のようなものでした。



アルプスを背景の高橋正夫さん

その頃から、いつかアルプスの高峰を見たいものと思っていました。

●アルプスやヒマラヤなどに行かれたそうですが

今年の夏はイタリア側と、フランス側からモンブランの周りをトレッキングしてきました。シャモニの針峰群との出会いは今回が4度目になりますが、そのたびに新しい感動があります。しかし1980年に初めて、シャモニを訪れた時は、かつて愛読した近藤先生の著書「シャモニの休日」にある先生の登攀記録や山名を思い出して、感慨深いものがありました。

昨年は人気のエベレストコースのトレッキングに行きましたが、山容のスケールの大きさはヨーロッパアルプスよりもひと回り上ですが、個人的には情緒的にもアルプスのほうにより惹かれます。どうも齢をとると、ヒマラヤの宿泊設備に不便を感じてしまいます。しかし近藤先生が翻訳した、エルゾグの「処女峰アンナプルナ」は1950年に、人類が8000メートル峰を初登頂した物語として、鮮烈に記憶に残っており、数年前に初めて、壮麗なアンナプルナの山容を見て圧倒されました。今年は1月に雲南省の奥にある神の山と言われている梅里雪山を拝んでみたいと出かけてきましたが、4200メートルの峠で大雪に閉じ込められるやら、ホテルでは停電にあうやら、散々な目にあって、とうとう山の姿もみられずにま

さに脱出してしまいました。

●今後のご予定は

当分は日本の山です。まだ行きたい山は沢山あるのですが、年々、足腰は弱るばかりで心もとないです。可能ならまた来年もアルプストレッキングに行ければいいのです。

●高橋さんにとって「山」とは何でしょうか

ひとたび、山の魅力を知ってしまうと、人生観も変わってくると思います。

一回、一回に新しい発見があつて、飽きることはありません。現役のころは殆ど山に登っていませんでしたが、山の本や写真などで夢をふくらませていました。私はなにをやっても不器用で、なかなか人並みにやれないのですが、専門的な登攀は別として、山には才能はいらないからです。山歩きはマイペース、ですから60歳からでも70歳からでも自分のペースで始めることが可能です。失敗を繰り返していますが、その経験がまた次に生きて、ますます興味を増すものです。

私はあまりグループ登山には参加していませんが、幸い同じようなペースの相棒にめぐまれて、長続きしている理由かも知れません。

早稲田の三年の時だった。母と二人だけのある日「あんたが生まれる時は難産で、大変じゃった」と話しはじめた。

当時四十五歳になっていた母に、四人目の「子」が宿つたことがわかった時どうにかして流産にしたいと、家のすぐ近くの小学校の運動場に毎夜通つたのだそう。重たい大きな石を、全力で持ち上げては足元に置く運動を続けたんじや。あんたは私のお腹の中で、元氣よく動き自分の臍の緒を首にぐるぐる巻

きつけて、仮死状態で出て来たんじや。産婆さんは、水を口にくんで、あんたの足をつかんで逆さにし、顔に吹きかけたら大声で泣き出したんじや。アンタは」

母とわたし

孝子 小出

末っ子として母に甘え、うるさい程まわりつき、なんとなくそれが許されて育ってきた私の出生に、こんなドラマ？が隠されていたんではないか。

十歳年うえの兄は、いつも「オイ！へそ」と私を呼んでいた。なんで私が「へそ」なのか。それをわかったのは、いつの頃だったか、もう覚えていない。兄も鬼籍に入つたはるか昔の話である。

四十九歳の父と、四十五歳の母は、丈夫で生まれてきた子供が、せめて親孝行の子に育っていくように、親孝行ではなかったけれど、私にとつて、世界一、好きな両親であり、母だった。(S30文)

●健康の秘訣は？

学生のとき、大病しましたので、疲労をためないように注意した生活を送ってきたせいかな、現時点では検診などでも正常で、まあ健康といつていいと思います。秘訣はありませんが、山歩きも役立つはいるのだらうと思つています。

●「山」はかなり体力が必要と思いますが

体力的に自信がないと思つておられる方でも、一度軽いコースを試してみると、案外と登れるものです。日本の自然の本当の素晴らしさは山に行つてみて実感できると思います。心の健康を維持するためにも、近場で、奥多摩や奥武蔵などにも癒されるコースが沢山あります。



富士見町三丁目

四丁目の巻

田口 政純

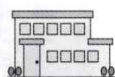
富士見町は会員分を、幹事編集局長の岡田さんから私が受け取り、

前幹事で一丁目在住の伊藤さんが、一、二、五丁目を、私が三、四丁目を配っております。私はこのポストマンの発案者、塩見さんが担当されていた毎月発行のニュース編集のお手伝いをしていた関係で、早い時期からポストマンを担当しています。

で、感心しております。私は朝、出かける前に配布するケースが多いものですから、たいした距離でもないのに時々、車で配布しています。騒音、排ガス等々でさぞかし諸氏にご迷惑をかけていることと思います。今後は、時世がらエコデリバリーには努力したいと思っております。

(S36理工)

事務局から



★今回もまた岡田さん、高鷲さんが中心となって編集作業を進め、多くの会員の皆様からもご投稿を頂き、内容のある立派な会報が出来上がりました。「早稲田のお宝」を分かりやすく纏めて頂いた高鷲さんのご努力に心から敬意を表します。次号からは是非新しい方にも入って頂き、さらに充実した会報にしたいと思っております。

★本年度新入会員の皆様(敬称略)
小永井 哲哉 昭和35 教育
大原 康 昭和33 商学

阿部 茂 昭和46 理工
重廣 正 昭和24 政経
松井 淳 平成8 理工(院)
★役員会・お誕生会には是非ご参加ください。毎月、第一土曜日(原則)の午後役員会を開催しています。この会には会員の方ほとんどでも参加でき、意見を述べる事ができます。奇数月は役員会に引き続き「雑学講座」を行っています。終了後は毎月その月に生まれた方をお招きし、お誕生会を開催しています。一人でも多くの方と一緒に祝いしたいと思っておりますので、是非ご参加ください。会員相互の懇親会も兼ねております。きつと

新しい出会いがあると思います。詳細は毎月発行のニュースをご覧ください。
★会費納入は年内にお振り込みください。平成二十年度(二十年十一月～二十一年十月)年会費五千円は、総会当日受付でお支払い頂くか、又は左記の口座へ振り込んでください。
△郵便振替口座 番号▽
001600-0112250
名義 東村山稲門会
△銀行普通預金口座▽
みずほ銀行久米川支店
口座番号 1876557
名義 早稲田大学東村山稲門会事務局

東村山市恩多町五二四一二七
電話 042(394)6951
小亀 輝雄 氣付

編集後記

編集後記を編む今宵、北京五輪に続くパラリンピックの聖火が消えた。日本国民に多くの感動と興奮をもたらした夏の宴では連日、中華文明ここにありの演出が間断なく披露された。後半のパラリンピックには早大生5人が参加。競泳50m平泳ぎ(運動機能障害)の鈴木孝幸(教育4在)は予選で世界新をマーク、決勝も制した。四肢不自由で身長116センチの鈴木が力泳に感涙。パラリンピック稲門会設立の構想もあり、母校早稲田は障害者スポーツでも期待大である。表紙を初のカラー写真で飾り、早稲田大学秘蔵のお宝を特集し、多彩な仲間の寄稿による12号の出来映えは如何。会報編集に関心ある稲門仲間よ来たれ。

(岡田)

肉薄

小永井 哲哉

過日、関ヶ原の旧跡を訪ねた。駅に近い家康二度目の本陣跡から三成が陣を敷いた笹尾山、更に敗戦を確認した後、敵前突破を敢行したという島津の本陣などを観て回った。

青々とした田園の遠近に復元された各武將らの陣屋を見ると、敵と味方の距離が意外なほど近いのに驚かされる。

これは、先年アメリカへ行った際、南北戦争の古戦場であるゲティスバーグでも感じたことであり「肉薄」

という言葉を恐ろしい迫真性をもって実感したことを思い出す。

しかし、ボタンひとつで発射される現代兵器には何ら実感を伴わないことが、更に恐ろしい。

(S35教)

公園清掃のボランティア

横尾 正宏

東村山に引越してきて、十年ほどになります。それ以来、通勤で近くの公園を通っています。

「ゴミも目立っていました。このため、何人かがこの公園をボランティアとして、清掃をしようということに

なりました。

通勤で、急いで通るばかりの公園ですが、「ゴミ拾いで、ゆつくり眺めると違う面も見えます。春の桜、梅雨の紫陽花。秋は、落ち葉とともに葉が落ちていたりと、小さい公園ですが、それなりに季節感があります。

最近、小学生の息子と幼稚園の娘もボランティアに参加してくれま

す。追いかけて、花を眺めていたりですが、そのうち、身につくかと思っています。私たちは、月に一度の清掃です。ただ、日ごろ、公

園に行くとき「ゴミを拾って自宅へ持ち帰られる方もいて、公園を大切にされている」ことを感じます。

(S60理工)

1%の貢献

當摩 彰子

全生園入所者自治会前会長の平沢保治氏。長年のつらいご体験を踏まえた講演は小学生から大人まで、多くの人々に感動を与え続けています。数年前、ある機会から親しく交流させていただくようになり、今はこの町の子ども達に未来への夢をあげたい、と共に行動してきた友等と畏敬の念を

込めて「お父さん」と呼ばせていただいている。ちなみに年長の私は長女である。

怨みを怨みで返してはいけない、と語り続ける「お父さん」はもつひとつ、「九九%は自分の好きに生きて良い。でも、どうか1%は他の人のためになる」と考えて欲しい。そうすれば、この世界はもっと素晴らしくなる。」と教えて下さる。さて1%の内いくらかを、どう稲門会の皆様方と生かしていこうか。私にとつての大きな課題である。

(S48教育)

SHORT